

令和5年度鞍手町議会第4回定例会会議録（第2号）						
令和5年6月12日						
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議					議 長
	令和5年6月12日 午後1時00分					的野信之
	閉 会 開 議					議 長
	令和5年6月12日 午後2時34分					的野信之
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	許斐英幸	出欠	11	栗田美和	出欠
	2	田中二三輝	出欠	12	西藤典子	出欠
	3	星正彦	出欠	13	篠原哲哉	出欠
	4	宇田川亮	出欠			
	出席 13人	5	野口美恵子	出欠		
	欠席 0人	6	新谷留晴	出欠		
	欠員 0人	7	的野信之	出欠		
		8	石井大輔	出欠		
		9	許斐潤一郎	出欠		
	10	有働徳仁	出欠			
会議録署名 議員	3	星正彦		4	宇田川亮	

職 務 出 席	議会事務 局長	広瀬真一	出欠	議会事務 局次長	加藤優	出欠
	町長	岡崎邦博	出欠	副町長	浅野彩	出欠
	教育長	外園哲也	出欠	会計課長	武谷朋視	出欠
	総務課長	高橋奈美江	出欠	都市整備 課長	西生卓矢	出欠
	福祉人権 課長	田鶴原竜二	出欠	まちづく り課長	柴田隆臣	出欠
	税務保険 課長	石田克	出欠	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長	梶栗恭輔	出欠
	管財課長	石田正樹	出欠	上下水道 課長	神谷徹	出欠
	健康こども 課長	沼野葉子	出欠	教育課長	森永健一	出欠
	住民環境 課長	大村俊夫	出欠			
地方自治法 第121条 により説明 出席者の 職氏名						
議 事 日 程	別紙のとおり					
付 議 事 件	別紙のとおり					
会 議 経 過	別紙のとおり					

令和5年 第4回 鞍手町議会定例会議事日程

6月12日 午後1時開議

第2号

日程第1 一般質問

令和5年6月12日 6月定例会一般質問。

1 出席議員は次のとおりである（13名）

1番 許斐英幸	2番 田中二三輝	3番 星正彦
4番 宇田川亮	5番 野口美恵子	6番 新谷留晴
7番 的野信之	8番 石井大輔	9番 許斐潤一郎
10番 有働徳仁	11番 栗田美和	12番 西藤典子
13番 篠原哲哉		

2 欠席議員は次のとおりである

なし

~~~~~○~~~~~

—— 開議 13時00分 ——

○議長（的野信之君）

これから本日の会議を開きます。これより日程に入ります。

日程はお手元のタブレット端末機に送信しているとおりです。

日程第一、一般質問を行います。

質問は通告一覧表の順序により行います。

最初に10番議員、有働徳仁議員の質問を許可します。有働議員。

○10番（有働徳仁君）

この問題は以前からずっとお話にあがっている議題だと思いますけど、各小学校のトイレ洋式化についてお伺いします。現状を教えてください。

（教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める）

○教育長（外園哲也君）

はい。現状について説明させていただきます。

各小学校とも、各階の児童用のトイレは男女とも1か所を洋式化しております。

今の子供たちは、家庭のトイレのほとんどが洋式化されているため、保育所などでも和式トイレの使い方を教えていますし、小学校でも新一年には教えていますが和式トイレで用を足すことが出来ない児童が多いのが実情です。

剣南小学校の女子に関しましては、洋式トイレに行列ができる状況があります。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

**○10番(有働徳仁君)**

今後のトイレの改修の考えを教えてください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

**○教育長(外園哲也君)**

剣南小学校の児童数は今後も維持、または微増し学級数も増えると推測していることから、改修する方向で町財政部局との協議を行っております。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

**○10番(有働徳仁君)**

今、教育長の答弁より協議を行っておりますとのことですが、洋式トイレを早急に設置するという考えがあると思いますけど、設置時期はいつぐらいを想定されますか。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

**○教育長(外園哲也君)**

今後、協議していきながら、なるべく早く予算等を取り、議会等に諮り早急に設置できるよう努力してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

**○10番(有働徳仁君)**

トイレに行列つくって困っている子供たちは多くいるという話だったので、早急に対応していただきたいと思います。

次ですね。剣南小学校の話だけをしたのですが、鞍手町は外も小学校があると思うのですが、全小学校を洋式化にすべき考えはございますか。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長（外園哲也君）

現在のところ、剣南小学校以外での小学校では大きな支障は生じておりませんが、今後とも状況を注視していきたいというふうに思っております。

以上です。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

今、教育長にお答えいただいたのですが、町長としては、今後、トイレの洋式化問題、どういふふうにお考えかお答えください。

（町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める）

○町長（岡崎邦博君）

先ほど教育長が答弁したとおり剣南小学校については、急ぐというふうなお話もあつています。保護者の方又は町P連の役員の方からもお話を聞いています。早急に剣南小学校のトイレの洋式化については取り組むようにとお話をしておりますので、はっきりとした時期は、今のところは申せませんが、できれば私自身は9月議会で予算を上程できればというふうに思っていますが、そこまでの準備が整うかどうか分かりません。整い次第取りかかるということを考えております。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

1日でも早い洋式化をしていただきたいなと思います。

次の質問もあります。

小学校の統廃合について、これも以前からいろんな方が質問していると思いますが、前日も3月議会で話が上がっていたと思うのですが、この教育委員会からの報告を受け、現時点の方向性はこういったものになってますでしょうか。お答えください。

（町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める）

○町長（岡崎邦博君）

統合小学校の建設地を南小学校敷地にするについての報告文書は、令和5年3月17日に教育長より受けておりました。その後3月27日に教育長へ剣南小学校敷地を建設地とした統合基本計画を察急に策定し、住民説明会を開催するように話をしております。

（教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める）

○教育長（外園哲也君）

町長から話を受けまして、速やかに統合基本計画案を策定し5月17日から6月6日までに意見募集期間としたパブリックコメントを終えたところです。

現在、パブリックコメントに対する対応を含めた最終的な統合基本計画案を整理中であり、でき次第、鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会を経て、教育委員会により統合基本計画を決定する予定です。

そのあとに基本計画を町長及び議会へ報告し、6月末に住民説明会を開催する予定にしております。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

○10番(有働徳仁君)

6月の住民説明会などで意見を取り入れた上で、統廃合後の場所をどこにするのかという結論を出すのか。

教えてください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長(外園哲也君)

統合基本計画につきましては、パブリックコメント及び鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会での意見を反映させ教育委員会において決定します。

住民説明会では、決定した統合基本計画を説明することとしており、住民説明会での意見を取り入れて結論を出すということは想定しておりません。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

○10番(有働徳仁君)

三つ目の質問です。

法的期限に伴って教育委員会が出した方針に従っていくという考えで良いですか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長(岡崎邦博君)

先ほど申し上げましたとおり3月27日に、早急に剣南小学校敷地を建設地とした統合基本計画の策定をし住民説明会を開催するように話をしておりますので、統合小学校の場所を剣南小学校とするということです。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

○10番(有働徳仁君)

再度町長にお伺いします。

先ほどおっしゃった住民説明で住民の反対運動が起こらない限り剣南小学校で進めていくという認識でよろしいですか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほど答弁したとおりです。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

○10番 (有働徳仁君)

次の質問ですが、小学校の統廃合問題について予算化されていないと思うのですが、今後の予定を教えてください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長 (外園哲也君)

住民説明会が終わりましたら手順を踏んで早期に次の段階へ進めていくための予算を要求していきたいというふうに思っております。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

○10番 (有働徳仁君)

現時点で事業予算としてどの程度を想定されていますか。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長 (外園哲也君)

統合基本計画案の段階では、校舎・体育館・給食センター・放課後児童クラブなどの建設工事費、外構工事費、解体工事費として59億円を見込んでおります。

なお、この金額は建設にかかる造成費、解体工事におけるアスベスト除去費用については次の段階である基本設計において精査するものとしており含まれておりません。

また、統合校開校までの全体の事業予算という意味ではこれからの費用のほかにも設計、施工管理にかかる費用、スクールバスやICT関連機器などの備品購入、既存の小学校からの引っ越しにかかる費用などが必要になっております。

パブリックコメントのご指摘を受けまして、現在、統合校開校までの全体事業費を精査中であり最終的な統合基本計画では全体事業費を掲載する予定にしております。

以上です。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)



○10番（有働徳仁君）

現段階ではっきりしたことは言えないと思いますが、町としてはどの程度の予算の負担になるのか分かる範囲でいいのでお答えください。

（教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める）

○教育長（外園哲也君）

基本計画案の段階で見込み59億円に対しては、国庫、県負担金及び過疎債交付税分として39億円を見込んでおり、鞍手町の自主的な負担額は20億円となります。

なお、先ほども申したとおり最終的な基本計画では開校までの全体事業費を掲載する予定であり、この中では全体事業費に対する国庫負担金などの金額、鞍手町の実質的な負担額も掲載する予定にしております。

以上です。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

この統合小学校ですが、完成予定はいつ頃ですか。

（教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める）

○教育長（外園哲也君）

現計画案では、統合小学校開校は令和10年4月を予定しております。

以上です。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

次の質問ですが、統合小学校は僕も進めていったほうがいいではないかなと思っている1人であるのですが、この統廃合後の空き校舎、いろんな小学校が空き校舎になると思うのですが、その利活用の考えを教えてください。

（教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める）

○教育長（外園哲也君）

廃校予定の小学校の利活用につきましては、教育委員会として現時点で具体的な考えはありません。今後、町全体の公共施設の利活用検討において、そのほかの公共施設を含めたところで検討されていくものと考えております。

以上です。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

この空き校舎問題のことも、以前お話しした「くらの郷」のことも、今後必ず利活用の問題で話しがでてくると思うので、統合小学校が令和10年4月を予定にしているということであれば、ある程度時期の目安が見えたら、現庁舎もそうですが、新庁舎が完成したら職員の皆さんも移動されると思うんですよ、その時に空きの公共施設ができるのであれば、同時進行で民間の企業に貸すのか、売るのかも協議していただきたいと思います。

この質問は以上で終わります。

次の質問です。

エクストリームスポーツ振興についてですが、これ皆さん、見たことあるかなと思いますが、鞍手町でスケボーやBMX、アクションスポーツ的な練習している子供たち、今もうオリンピックの種目にも入っています。これは鞍手の若者だけではなく、直方市だったり中間市だったり、宮若市だったり近隣の若者からも練習する場所がないと多くの相談を受けます。

そういったアクションスポーツを日頃から練習してもっとうまくなって大会だったり、オリンピックを目指したいっていう若者、愛好者の技術向上と町のアピールにつながる練習施設を町として提供するお考えはありますか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

#### ○町長 (岡崎邦博君)

スケートボードやBMXのパーク競技については、東京五輪で正式種目となり、近隣では宗像市、中間市、飯塚市や香春町などにスケートボードパークが開設されており、新たなスポーツの種目として、競技人口が増えていることは承知をしております。

若者向けのこういった新たなスポーツへの取組や、高齢者向けの健康寿命を延ばすためのスポーツなどの取組を推進していくことは、鞍手町をより魅力あるまちにいくために重要な取組の一つであるとの考えは持っております。

私自身、最近テレビでもよくこれが放映されておりますので、すごく興味を持っておりますし、本当15歳ぐらいの子供たちが金メダルを取るといようなことはよく報道されておりますので、この競技については興味を持っております。

(10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める)

#### ○10番 (有働徳仁君)

では、町として今後どう考えていくのか町長の今のお考えをお聞かせください。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長（岡崎邦博君）

ただ、町内にどれぐらい競技をされている人がいるのか、または需要があるか等は把握が出来ておりませんし、個人の方だけを対象とした場所の提供などについては管理などでなかなか難しい一面があると思います。

今後、町に競技団体が設立されるなど機運が高まってくるような状況があれば検討していきたいと考えております。

（10番 有働徳仁君、挙手して発言を求める）

○10番（有働徳仁君）

トイレの問題だったり、統廃合の問題だったり、このスケートボードの問題、これらを担っていく子供や若者たちのために少しずつでもいいので、ちょっとスピード感持って計画を立てて進んでいってほしいなと思います。

以上をもちまして自分の一般質問を終わります。

○議長（的野信之君）

以上で、有働憲仁議員の質問を終了します。

○議長（的野信之君）

次に、12番議員、西藤典子議員の質問を許可します。

○12番（西藤典子君）

12番です。

通告に従いまして、質問いたします。

まず、12月議会で質問いたしました「くらじの郷」の旧入浴施設の再開の件でございますが、その後12月時点で要望になった方々以外の方からもかなりの方からあの件はどうなっているのかという質問を受けます。施設は私たちの大切な社交場であった。ぜひ復活させていただきたいなどと言われております。

あのおとき町長からは今後の可能性の一つとして検討したい旨の答弁をいただきましたが、その後、状況はどうなっておりますでしょうか、何か進展等ありましたらお尋ねいたします。

（町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める）

○町長（岡崎邦博君）

ご質問の入浴施設の再開につきましては、今議員が言われたとおり令和4年12月議会でも答弁させていただきましたが、現時点では特段の進展はありません。

答弁の繰り返しにはなりますが、くらじの里の利活用については庁舎移転までの間に、

避難所再配置の検討を含め準備を行ってまいりますので、入浴施設についても利活用の可能性の一つとして検討は行っていきたいと考えております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

前回の質問時に担当課からいただきました資料では平成19年当時、年間約6万1000人以上の町内の入館者がいらっしゃった。ところが、その2年後の平成21年には約半数の3万人弱に減り、その後平成25年には2万5000人弱。その後は平成26、27、28年では約2万2000人で推移し29年度中の廃止検討準備に至ったということでした。

廃止当時、年間営業日300日としまして、1日約80人の利用ということでしたが、その後の社会情勢の変化、また高齢者やひとり暮らしの増加も考えられまして町の福祉施設としての必要を改めて検討する必要を感じますが、いかがでしょうか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長(岡崎邦博君)

この施設の福祉施設としての利用の推移については、私は承知をしておりますし、私自身、当時議員でもありましたし、この入浴施設、福祉施設についての廃止についてはむしろ私としては反対をした立場です。

この数字については、私は議会の中でも指摘をしております。

しかし、残念ながら当時議員でしたが、これを町の行政が進めることに対して残念ながら覆すことが出来ずに廃止に至ってしまいました。非常に残念です。

当時ボイラーを変えれば数千万円で済んでいたところですが、一旦廃止をしてしまいますと全て配管から更新していくというようなことになりまして、かなりの費用がかかるようになります。議員がおっしゃることについては私自身も承知はしておりますけれども、なかなか今廃止に至って数年がたった後にすぐに復活ということは難しいという状況です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

3番目の質問です。

地域公共交通網形成計画に関わるアンケートということで、また質問する準備をしておりますけれどもアンケートが取られるわけですね。そうすると、もし将来復活すると

というようなことになれば、送迎バスの運行も必要となってくるということも考えられます。

だから、するかしないかは分からないにしても、そのための資料としてこの件についてのアンケート調査をどのぐらいの方が必要とされているのか。どのぐらいの方が復活すれば、利用されようとしての回数とか、そういったことを資料として取るためにも、せっかくアンケートが町として取り組まれるわけですから、アンケート調査を同時にされたらどうだろうかという気持ちを持っておりますが、その点はどうぞごめいましょうか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

#### ○町長 (岡崎邦博君)

アンケート調査につきましては、鞍手町の地域公共交通会議の中でアンケートをとるようになっております。

また、今廃止になっている施設についてどうするかっていうよりも、まだ福祉センターとして機能しておりますので、福祉センターとしてのアンケートをとるということはあるかもしれませんが、先ほど答弁しましたように、地域公共交通会議の中でアンケートの項目については検討するようになっておりますので、ここで私がこうするということにはなりません。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

#### ○12番 (西藤典子君)

その点はもし出来ましたらせっかく町内挙げてアンケートをとられるわけですから、何か少しでも資料になるようなものが得られればと思っております。

次の質問に移らせていただきます。

自衛隊への個人情報の提供についてお尋ねいたします。

5月11日付の西日本新聞の記事に接しまして大変驚きました。

記事によりますと、自衛隊は採用活動で市町村が管理する住民基本台帳をもとに18歳や22歳の人をリストアップし、自宅に募集案内を送るなどしている。行政上の必要がある場合、国には台帳の閲覧が住民基本台帳で認められ、自衛隊の担当者が市町村役場で書き写せば対象者の名前や住所把握ができる、ちょっと中略しますが、名簿で提供しよう要請した。特に、令和元年、2019年度には当時の安倍晋三首相が、6割以上の自治体が防衛省の求めに応じないなどと提供を拒む市町村を批判した。

そこで、防衛省は働きかけを強め、同省の調べでは令和4年度、2022年度、昨年、

全国で最多となる6割超の市町村が名簿を提供したとあります。

そして、西日本新聞の取材では、22年度、昨年に提供したのは、福岡県内では22市町村で県内の全体の37%が応じている。

その中に鞍手町が記載されている。以前、福岡市でこの問題が起こりましたときに、私から鞍手町の状況をお尋ねしましたが、そのときは提供していないと答弁されました。

そこでお尋ねいたします。

いつから名簿を提供しているのでしょうか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

**○町長 (岡崎邦博君)**

この件につきましては住民環境課長に答弁させます。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

**○住民環境課長 (大村俊夫君)**

お答えいたします。

鞍手町では、令和3年度より名簿を提供しております。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

**○12番 (西藤典子君)**

提供名簿の具体的内容ですね。

項目とそれから提供の対象者数はどうなっておりますかお尋ねいたします。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

**○住民環境課長 (大村俊夫君)**

お答えいたします。

名簿の内容ですが、その年度に18歳、22歳になられる方の氏名、生年月日、性別、住所の4情報となっております。令和5年度に提供した人数は243人です。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

**○12番 (西藤典子君)**

提供するに至った経緯、理由をお尋ねいたします。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

**○住民環境課長 (大村俊夫君)**

お答えいたします。

令和3年2月防衛省人事教育局、人材育成課長、総務省自治行政局住民制度課長の連名で自衛官または自衛官候補生の募集事務に関する資料の提出についてという通知がありました。その中で、自衛官及び自衛官候補生の募集に関し必要な資料として、住民基本台帳の写しを用いることについて住民基本台帳法上、特段の問題を生ずるものではないとされており、その後、令和3年度より、自衛隊に名簿を提供しております。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

#### ○12番 (西藤典子君)

西日本新聞の記事の中にもありますが、提供を断る市町村は法的根拠を疑問視するとあります。住民基本台帳法11条には、市区町村による目的外の利用や外部提供についての定めは一切ございませんね。

それから、今通知があったとおっしゃいましたけれども、防衛省からの通知などというのは技術的助言にすぎなくて、応じなくても不利益な扱いがされないということです。

現にその記事にもありましたが、直方市、飯塚市、中間市、桂川町、糸田町近隣だけ、水巻町などは基本台帳の閲覧にとどまっているわけです。

なのに、鞍手町が応じたその理由をお尋ねしたい。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

#### ○住民環境課長 (大村俊夫君)

令和3年2月の通知以降、名簿を提供しているのですが、すいませんその当時の協議の経過等をこちらに資料ありませんので詳細は判断しかねるんですけども、その後、鞍手町としては何も問題を生じてないという、技術的助言を参考として提供に至っております。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

#### ○12番 (西藤典子君)

その文書には、使用目的として具体的にはどういうことが書かれているのでしょうか。また通知の宛先は誰になっておりますか。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

#### ○住民環境課長 (大村俊夫君)

お答えいたします。

利用目的としましては、自衛官等の募集対象者である「男子、女子、日本人に限る」

に対して、自衛官募集に関する案内の送付等に利用するためとなっております。

宛先としましては鞍手町長宛となっております。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

問題はないとのことですが、町内において一切問題は起こっていないのでしょうか、お尋ねいたします。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長(大村俊夫君)

現在のところ、名簿の提供に関して問題等は起こっておりません。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

それを自衛隊に提出後、個人情報はどう処理されているのか確かめておられますか。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長(大村俊夫君)

お答えいたします。

名簿の提供時に自衛隊より誓約書をとっており、その中では、取得した個人情報につきましては、翌年度の4月1日に細かく裁断し廃棄することと明記されており、それに従っているものと思われま。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

そういうことであれば、漏えいというようなことは無いであろうと思いますけれども、もしそのような他の目的に使用したり、漏えいしたということとなった場合は、責任の所在はどこになりますか。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長(大村俊夫君)

お答えいたします。

先ほど申しましたように誓約書の中には、この取得により生じた問題は自衛隊が責任を持って解決すると制約されております。



以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

ところで本年度、令和5年度はもう提供されているのでしょうか、お尋ねいたします。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長(大村俊夫君)

令和5年度につきましてはもう既に提供しており、その人数が243人となっております。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

安法制が制定され、そして自衛隊には戦死の可能性が生じております。

今や新しい戦前という言葉がクローズアップされている状況でございます。

そのような状況の中で本人も親も知らないうちに個人情報自衛隊に手渡されているという現実憤りを覚えています。

今後どう対応されるおつもりでございましょうか、お尋ねいたします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長(岡崎邦博君)

自衛隊は我が国の防衛のみならず、国際平和のための活動や国内外の災害派遣など、我が国の平和と安全及び国際社会の安定を確保するための重要な任務を担っています。

そうした中で自衛隊法では第97条で都道府県知事及び市町村長は政令で定めるところにより、自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務の一部を行うとされており、自衛隊法施行令では第120条で防衛大臣は自衛官または自衛官候補生の募集に関する必要があると認めるときは、都道府県知事または市町村長に対し必要な報告または資料の提出を求めることができるとされております。地域の情報を的確に把握している市町村はその事務を担う必要があると考えており、今後も自衛隊の求めに対し法令等に沿って対応していきたいと考えております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番(西藤典子君)

求めることができるということと、提出しなければならないということの違いを説明ください。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

もちろん求めることができるということでもありますので、その求めに応じるかどうかということでもあります。それで鞍手町としては法令に従って求めに応じて提供しているということです。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

本人や保護者はそのことを知っておりますか。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長 (大村俊夫君)

この内容につきましてはご家族等にはあえて通知等はしておりません。

以上です。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

個人情報本人が知らないうちに提供されるということの重大性をどう考えていらっしゃいましょうか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほども答弁したとおり、求めに応じて法令上は提供することができるというふうになっておりますので提供しております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

戦前、戦中ですね。

地方自治体は徴兵制を担って有無を言わず戦地に若者を送り出した、そういう歴史があります。

しなければならぬとも言われてないのにね、しかも本人も親も知らないうちに町が自衛隊に氏名を提供するという事。

これ、おかしいと思いませんか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほども答弁したとおり自衛隊は国だけではなく、国の内外に対して災害派遣等の重

要な任務を今、担っていただいているという認識でもあります。

特に昨今のこの気候変動によって災害の多い日本でもあります。

その際には、いち早く自衛隊員の方たちが災害復旧のために、私たちの生活、生命、または、安全安心のために、ご尽力をいただいております。そういった意味からしても、私は自衛隊のお求めに応じることが必要だろうというふうに考えております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

#### ○12番(西藤典子君)

安保法制が制定される前はそれでよかったかもしれません。

しかし、今や安保法制があり自衛隊はいつなんどき戦争に赴かなければならないか分からない状況なのです。戦死する可能性があるのです。そういう状況を踏まえられたら、そんな答弁は出てこないのではないかと私は思います。

地方自治体っていうのは、国民の命と暮らしを守る最後の砦なのです。

まだ頑張っているところがたくさんあるじゃないですか。そういうことを強制する社会になったらもうお終いですよ。そうならないように、私たち全力挙げなきゃいけないのだけど、まだ福岡県は37%ですよ。そのときに鞍手町がなぜ、資料を提供するのか。やっぱり町長は、町民の命と暮らしを守る最後の砦として、自覚をしっかりと持たれてたとえ最後の1市町村になるなってときもですね、頑張る。

若者を戦場に追いやって命を落とさせるようなことには協力しないとひとつ思っしてほしいと思いますよ。

そういう町長でなければ、私たちは信頼することが出来ません。

何とかその頑張りを見せていただいでですね、今後の対応を考えていただきたい。

これ以上ここで言っても無駄かもしれませんが、私はそういう願いを持っております。知らないですからね本人たちも、親御さんもお存じないのですよこの事態を分かたらどう思われますか。大きな声が上がってくると思いますよ。

だって今ね、テレビの番組である方が、新しい健全と言われたらそれはもうパーッと広がってですよ。

今、拡大増税ということも、今の政権を推し進めようとしているときですよ。

何とかね。踏ん張ってほしい。守ってほしいと私は思います。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

#### ○町長(岡崎邦博君)

私は国民の生命と安全、また健康、財産を守るために自衛隊は今必要だというふうに

感じておりますので、引き続き名簿の提供については求めに応じていこうと思っております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

よく町民の皆さんの声に耳を傾けていただきたい。

先ほどから言いますように、災害のための自衛隊等という状況じゃなくなっているんです。もう今、日本の各地域の自衛隊基地が地下化され、シェルター化されて、そしていつ爆撃があってもいいようなそういう体制にどんどん進んでいるんですよ。

そういう中で自衛隊、鞍手町の若者をそういう危機にさらすようなことは、最後の1人になっても踏ん張って頑張っていたきたいと重ねて申しましてこの質問を終わります。

最後に、地域公共交通の形成計画に係るアンケートについてですが、12月議会の答弁で令和5年度中に実施予定と伺いました。

進捗状況はどうなっておりますか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

現在策定している地域公共交通網形成計画にかわる計画として、町では今年度新たな地域公共交通計画を策定することとしております。

この計画の中で、利便性が高く持続可能な公共交通を検討していくため、町の公共交通の現状の問題点や課題を分析するとともに、業者等のニーズを把握する必要があることから、住民等を対象としたアンケート調査を実施することとしておりますが、今月22日に開催を予定しています鞍手町地域公共交通会議の中でアンケートの実施期間等を決定していくこととしております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

その後の予定はどうなっておりますか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

アンケートを実施した後については、先ほど言いましたように地域公共交通会議の中で進めていこうということになっております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番（西藤典子君）

アンケートの実施時期は、どういう見込みでございましょうか。

（都市整備課長 西生卓矢君、挙手して発言を求める）

○都市整備課長（西生卓矢君）

お答えいたします。

先ほど町長が申しましたとおり、地域公共交通会議の中でアンケートの内容、その実施期間等を決定していくこととなりますので、現在は決まっておりません。

以上です。

（12番 西藤典子君、挙手して発言を求める）

○12番（西藤典子君）

今の段階で予想され、いろいろ現状があって、その必要があってアンケートに取り組みもとされているわけですから、今予想される質問事項などをもし想定されておりましたら、お聞かせ願いたいと思います。

（都市整備課長 西生卓矢君、挙手して発言を求める）

○都市整備課長（西生卓矢君）

お答えいたします。

何度も繰り返しになるのですが、アンケートの質問事項につきましても、今後の鞍手町地域公共交通会議で決めていくために、現在内容を検討しているところでございます。公共交通利用者はもちろん、高齢者から学生までを対象とした、幅広いアンケート調査を実施し、計画に反映ができればと考えております。

以上です。

（12番 西藤典子君、挙手して発言を求める）

○12番（西藤典子君）

アンケート調査っていうのは質問の設定によって随分結果が変わってくるんですね。だから町民の皆さんの要望ができるだけ結果にあらわれるような設問事項、質問事項をぜひ入れてほしいということ saying しているわけですが、私がいろいろ町民の皆さんの声を聞く段階で、小中学校はスクールバスは完備して申し分ないけど、高校に行く子供たちが非常に難儀されておると。ご高齢のおじいさんとおばあさんとかが、もう免許返納したいんだけど孫を送り迎えしないといけないから返納出来ないと、そういう悩みをおっしゃっておいりましたし、それから、停留所のみで止まるもやタクシーも行きはいいが帰りはもう、買物の荷物があって、とてもじゃないけど歩けないのに、停留所に

しか停まらなくて、自分の家がある前にあったのに、通り過ぎて、何か自分のうちの近くで乗り降りできるようなタクシーに出来ないのだろうかというような声も聞きました。

また、地域、自治体によっては、高校生の通学支援バスをつくってるとか、あるいは社協が行っているらしいお買物バス、それから電話1本で戸口まで迎えに来てくれて、路線バスとの接続もできるようなこととか、そういったことも参考にされて、質問事項をつくっていただいたらなと思ってるんですが、それから、もうついでに言いますと近隣のですね市町村の例などは参考にされておりましたでしょうか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

今回の計画策定に当たり、近隣自治体の事例等も調査することになるかと思えます。

近年は時刻表や決まった運行ルートがなく予約状況に応じて、人工知能ですか、効率的な配車運行ルートを決めるAI活用型オンデマンド交通を取り入れている自治体が増加しており、そういった事例を踏まえたアンケートを検討していきたいと考えております。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

ぜひそうしていただきたいのですが、近隣の例としては、嘉麻市が利用者実態の把握と分析、バスの昇降者数を分析し時間帯によって利用する年齢層の違いとか、そういったことを分析した結果、実態に応じた路線や運行の仕組みを実現し、バスの利用者数は約1.7倍になったということも聞いております。ぜひこういったことも参考にさせていただいてアンケートの質問項目に入れていただけたらなと思えます。

それと、ついでに言いますと、最近免許返納した方が、やっぱり一般公共交通機関をあまり使用してないんですね。私の近くでもシニアカーに乗換えられる方は目立っております。だから、この方たちに対してシニアカーを利用するに至った理由とかね、そんなことを聞いていただいたら、より一層町民の皆さんの気持ちが反映できるものになるのではないかと思います。そういった項目も入れていただけますでしょうか。お尋ねいたします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

何度も先ほどから答弁しておりますように、項目については、今後、地域公共交通会議の中で決めていくということになります。

(12番 西藤典子君、挙手して発言を求める)

○12番 (西藤典子君)

このように、広くきめ細かく町民の声を収集いただきまして、町民の要求、要望に沿った移動機関の実現にたどり着くことができるように最大限の努力をお願いいたしまして私の質問を終わらせていただきます。

○議長 (的野信之君)

以上で、西藤典子議員の質問を終了します。

ここでしばらく休憩いたします。

—— 休憩 13時55分 ——  
~~~~~○~~~~~  
—— 再開 14時10分 ——

○議長 (的野信之君)

会議を再開します。

引き続き一般質問を行います。

4番議員宇田川亮議員の質問を許可します。

○4番 (宇田川亮君)

はい、4番。

改選後初めての一般質問です。また4年間、毎回やっていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

通告に従いまして、2点について質問いたします。

1点目は、学校給食費の無償化についてです。

4月に行われた町会議員選挙において、私は学校給食費無償化を公約の一つとして掲げました。この点について、子育て世代を中心に強い共感と期待の声が寄せられています。

安過ぎる賃金、社会教育費負担に加えて空前の物価高の中で切実な要求です。

そして、学校給食費無償化には三つの大義があります。

第1に、義務教育無償という憲法原則から当然の要求であること。

第2に、教育費の負担軽減は、子育て世代の強い要求であり、日本社会の大問題であること。

第3に、学校給食を通じた食育の推進は国と自治体の責務であることです。

そこでお尋ねしますが、義務教育無償の範囲について学校給食費も含まれることを文部科学省も認めています。町長、教育長はどういう認識を持たれているのか、お答えください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長（外園哲也君）

学校給食費無償化につきましては、学校の設置者と保護者との協力により学校給食が円滑に実施されることが期待されるとの学校給食法の立法趣旨に基づき、学校設置者において検討されるようになっております。

義務教育に係る費用の負担軽減につきましては、重要なことであるということは十分理解しておりますが、学校給食法第10、11条の経費負担の規定にのっとり食材費以外は町が負担していますので今のところ無償化の考えはありません。

以上です。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長（岡崎邦博君）

今、教育長が答弁したとおり私も教育長の考えと同じです。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番（宇田川亮君）

ちょっと質問に答えられてないですね。

義務教育無償化、この範囲を憲法では認めている。

文科省も認めている。その範囲について学校給食費も、義務教育無償化の中に入っているのか、その認識はあるのかって聞いている。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長（外園哲也君）

義務教育無償化についてでございますが、昭和39年に最高裁の判決で出ておりますが、義務教育の無償化の範囲につきましては、授業料不徴収の意味を回避するというのが相当であるというふうな判決が出ております。

しかしながら、そのあと教科書無償化等々出ておりますけども、保護者の負担軽減ということに関しましては、給食費に関しましても範囲には入るとは思いますが、今のと

ころ現段階におきましては無償化の考えはありませんということです。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

国会での文科省の答弁等を紹介します。

義務教育の無償の範囲について、これはもう72年前、1951年の答弁ですけど、まずの中で憲法に定められております義務教育の無償をできるだけ早く広範囲に実現いたしたい。

政府としての根本的な考え方と、現在は、授業料でございますが、そのほかに教科書と、それから学用品、学校給食費というふうな、なおできれば交通費というふうなことも考えております。これは1951年の政府答弁。しかしながら、2018年、5年前の12月6日ですね。参議院文科省の委員会での委員の質問で、この件については、今も見解は変わっておりませんという文科省の答弁がっております。ということは、義務教育無償化の無償の範囲は学校給食費も含まれるというふうに政府は考えている。

今、このことについて認識を改めてほしいと思いますけれども、町長と教育長の認識を再度お伺いします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

1951年の答弁につきましては、私は承知をするところではありませんし、また2018年の参議院委員の答弁についても、承知をしているところではありません。しかしながら、今、宇田川議員が答弁を言われて、政府としてもそういう考えを持っているというようなことであるならば、また政府として、今、学校無償化についても、いろいろと様々研究、調査をしているというようなことであります。

私自身はこれについては、やはり国の制度として答弁があったように学校の給食費の無償化については、国の制度として取り組むべきものかなというふうに思います。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

義務教育無償というその範囲について学校給食費も含まれるという認識を改めていただきたいというのが、一つの趣旨です。

先ほど教育長が言われました学校給食法の11条、これを根拠にしてね、ここ、食材費については保護者が負担するというこれが根拠になっているわけですがけれども、この

間のこの中でもですね、地方交付金の中でも政府は学校給食費を無償にする、その中に、交付金充てていいですよという項目にも入れているわけでしょ。で、2020年の10月7日、日本共産党の小池晃書記局長の参議院での代表質問に対して岸田首相は、保護者が負担する学校給食費を自治体等が補助することを妨げるものではないと無償化については、自治体において適切に判断すべきものと答弁をされておりますが、この点については御存じですか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

私はこのことについては承知をしておりません。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

承知はされてないでしょうけども、実際に鞍手町も短期間ではありますが学校給食費を無償化にしてきたということは事実としてあるわけでしょ。そうすれば、義務教育無償の中に学校給食費の無償化も入るし、先ほど町長が政府としてやってほしいというようなことも言われていましたけども、今のところ岸田首相は自治体において適切に判断すべきというふうにも言われています。

次に行きますけども、「学校給食を通じた食育の推進」これについては、以前から町長も学校給食は食育だというようなことは申されてありましたけれども、この食育の推進は国と自治体の責務である。この認識について、町長と教育長の答弁をお願いします。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長 (外園哲也君)

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食などの食生活の乱れや肥満痩身傾向など子供たちの健康取り巻く問題が深刻化されています。

また、食を通じて地域などを理解することや食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要です。

こうした状況を踏まえ平成17年に食育基本法が、平成18年に食育推進基本計画が制定され、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう各学校において教育指導計画にのっとり関連教科などで年間を通して計画的に食育を実施しております。

また、栄養教諭とも連携して食育の生きた教材となる学校給食を活用し、食に関する指導の充実に取り組んでおります。

このように食育というものは、教育の一環というふうに考えております。
以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

今、教育長言われたとおりですね・

2005年に食育基本法が制定されて、これを受けて学校給食法が改正されたわけですよ。それでも、食育の推進という特に食育基本法の点について子供たちに特段のことが述べられているんですよ。子供たちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためには何よりも食が重要である部分ということが、食育、この基本法の中で言われて、それを受けて学校給食法で、特に第5条でもしっかり食育の推進ということは自治体の責務としても言われてあるわけで、先ほど教育長が答弁されたような内容で実施されているということです。

それを踏まえてなんです、当福岡県内における学校給食費無償化の状況、現在どうなっているかっていうのを教えてください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長 (外園哲也君)

この件につきましては、教育課長に答弁させます。

(教育課長 森永健一君、挙手して発言を求める)

○教育課長 (森永健一君)

お答えいたします。

福岡県における給食費の無償化については、令和5年度学校給食費補助等状況調査というのがあっておりましてその中で、恒久的に無償化している自治体が1自治体、一次補助が20自治体、無償化等の実施なしが39自治体となっております。

また、令和5年度だけの一時的な措置として、無償化を実施している自治体が3自治体、一部補助が24自治体、無償化の実施なしが18自治体となっております。

なお、これが4月の時点の調査となりますので、この後にコロナの臨時交付金等を財源といたしまして補正予算で年度途中から無償化や一部補助を実施している市町村も財源がっております。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

これまで、大任町が学校給食費の恒久的な無償化、今年の4月からは小竹町も完全無償化になりましたよね。

今、どんどん学校給食費の無償化っていうのが広がってきている状況です。

では、町内の生徒児童数、そして要保護、準要保護の数、また準要保護の基準についてお尋ねをいたします。

(教育課長 森永健一君、挙手して発言を求める)

○教育課長(森永健一君)

お答えいたします。鞍手町の児童数は693名、うち要保護認定数は18名、率は2.6%、準要保護数は144名で、率は20.8%です。

また、生徒数については387名、そのうち要保護認定数が13名、全体の3.4%、準要保護数は93名で24.0%です。小中合計で要保護認定数は31名、全体の2.9%、準要保護数は237名で21.9%です。

また、準要保護の基準につきましては、生活保護における最低生活費の1.5倍未満が、認定の基準となっております。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番(宇田川亮君)

準要保護基準1.5なんですね。分かりました。

学校給食費を完全無償化した場合の、町の負担分かりましたら教えてください。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長(外園哲也君)

現在、使われております給食費でございますけども、6000万を超えるというふうな値が出ております。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番(宇田川亮君)

このうち準要保護、要保護の1部分も含まれているということかと思っていいですか。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長(外園哲也君)

準要保護、要保護のお金のほうも入っているというふうになっております。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

とすれば完全無償化にした場合の負担増の部分は、現在、要保護、準要保護でもう既に負担はされてあるわけで、その分を引いたら、負担増の分はどのくらいになりますか。

(教育長 外園哲也君、挙手して発言を求める)

○教育長 (外園哲也君)

約5000万以上というふうになります。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

第一発目の質問から、もう学校給食費を無償化しませんと教育長からも言われましたけれども、しかしながら「教育費の負担軽減を図るために学校給食費を恒久的に無償化する」こういう自治体もどんどん増えてきているわけで、全国的にもうこれ広がっているわけですよ。そういった中で、町長は今年の10月から子供の医療費の無料化を、18歳高校卒業まで完全無料化するというのも、おっしゃられて予算もつけられています。

やっぱり子供たちのことを考えて教育費の負担を軽くすると、現状、物価高なども見れば、やっぱそれは私も当然のことだろうと思うし、町長も子供たちのためにやってこられたんだろうと思いますけども、学校給食費も恒久的に無償化する、その考えについて、答弁をお願いします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

私自身も子供さんたちや、また子育て世帯に対しての思い入れは強くあります。

今、宇田川議員が言っていただきましたように、今年の10月からは医療費を18歳まで完全無料化するというふうに制度としても整えていくようにしておりますが、学校給食の無償化についても臨時交付金を使って2度ほど3か月無償化を行いました。

また、令和5年についても給食費の増加分については町で負担するという事で値上げをしないように考えて実際に取り組んでおります。ただ、各自治体の財政状況を考えてみますと、それぞれ無償化できるところとそうじゃないところと、財政状況にかなり違いがあるように感じております。

先ほどの要保護、又は準要保護世帯の数についてもそうですし、鞍手町にはないよう

な財源を持っているところもありますし、大任町については「さくら街道」の道の駅の収益を充てるというようなことになっているようです。そういった財源の確保ができるところと、なかなかそれが難しいところ、将来にわたって大きな事業を抱えているような自治体、様々な財政状況に違いがあるわけで、なかなか一概に同じように、足並みを揃えて学校給食を無償化するということが難しいというふうに考えております。

鞍手町におきましても、今大きな事業を幾つも抱えているというようなこともありまして、なかなか今すぐ恒久的に学校給食の無償化に取り組むというようなことについては難しい状況にあるということです。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

周りが全部無償化を進めていってもそれはやらないということですか。

町長前向きに考える気持ちはありませんか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

これは自治体の性といいますか、周りが取り組めばどうしても足並みをそろえていくというようなところがあります。そこにある意味、財政力があるところとそうじゃないところに大きな違いが出てくるわけで、それがまた住民にとっての格差になってくるといふふうにも思います。非常にそこは難しい判断になると思いますが、今ここで、すぐに各給食の無償化に取り組むというような答弁が出来ないということで、先ほど教育長の答弁もあったように、今のところ無償化は難しいという状況であるということです。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

小竹町が今年4月から完全無償化になりましたけども、町長が公約として学校給食の無償化ということでやってきたわけで、あそこになんの財源があるからこれ使ってとかいうことじゃないですよ。町長の政治姿勢で学校給食費を無償化にしますということで、それを実現させたわけですよ。だからこれは岡崎町長の政治姿勢に関わってくるんじゃないですか。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほど言いましたように、小竹町の子供さんたちの状況、いろいろと先ほど保護だとか準要保護の状況もありましたが、また小学校の統合についても小竹町は3校を1校に

統合するということですが、大規模改修にするというようなことの話も聞いております。

自治体で取り組む方法もいろいろ違いますので、比較してどうだっていうようなことにはならないというふうに思います。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番(宇田川亮君)

比較してと町長が先に言ったんですよ。

そこそこの財政状況が違う。

町長が言われたから政治姿勢のことを私は言ったわけですよ。

町長の考え方一つでできるできないかかわってきます。

先ほどのトイレの問題もそうですけど、例えばね、本当に教育費の負担を減らすと、そのために何とか捻出していきたいっていうふうに思うのであれば、いきなり全部無償化にするのは出来ないけれども、例えば父子家庭の部分、それから準要保護が先ほど1.5倍って課長言われましたけれども、就学援助の子供さんについては、例えば学校給食費については2倍までにするとか、そしたら、いきなり5000万、6000万を使わなくても、ある程度本当に困ってあるっていいですか教育費の負担が本当に大きいところにまず焦点に当てて、学校給食費を無償化にしていくとかという考え方もあるわけですよ。

だから、そういうのも含めてね、前向きに検討していただきたいと思いますけどもう一度答弁をお願いします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長(岡崎邦博君)

先ほどの質問からしますと、もう完全無償化というのが前提としての質問がずっとあったように思います。今、宇田川議員のほうから提案として、無償の方法としていろいろな方法があるんじゃないかというような提案がありましたので、その提案も含めて今後検討していきたいと思います。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番(宇田川亮君)

それは最後の目標は完全無償化ですから、それは最初から言いますよ。

町長に成り代わって私言いましたので、ぜひ前向きに検討してください。

次に行きます。

二つ目にマイナンバーカードについてお尋ねします。

6月2日に、マイナンバー法改正案が自民公明の与党、日本維新の会、国民民主党の賛成多数で成立しました。

健康保険証と一体化したマイナカードに別人の情報が登録されていた誤りは医療事故を起こしかねない危険なトラブルでもあります。これが7300件以上も起きています。

また、総務省が9日に発表したマイナポイントの誤った付与について行った調査の中間報告でも、全国133の自治体で173件に上っていると公表をされております。

公金受取口座で、本人以外の家族名義と見られる口座が登録されたケースも約13万件確認されております。

そこでお尋ねしますが、現在の鞍手町におけるマイナンバーカードの普及率、そして、銀行口座及び健康保険証との紐づけの状況について教えてください。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

この件につきましては、住民環境課長に答弁させます。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長 (大村俊夫君)

お答えいたします。

鞍手町の普及率ですが、5月末現在でマイナンバーカードの申請件数が1万2292件で申請率80%。

マイナンバーカードの交付件数が1万592件で、交付率69%となっております。

マイナンバーカードへの公金受取口座の登録及び健康保険証としての利用申込み件数については自治体別の数字は出ておりません。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

銀行口座と紐付けとか保険証の紐づけについては町でも分からないということですか。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長 (大村俊夫君)

お答えいたします。

全国の件数は出ていますが、自治体別の数というのは出ておりません。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番（宇田川亮君）

自治体として、交付申請等にこられた方に案内してやるとかいうこともされていないですね。そしたら、それも分からない。

（住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める）

○住民環境課長（大村俊夫君）

お答えいたします。

住民系の窓口でマイナンバーカードの公金受取口座の登録であったり健康保険証としての利用の登録のサポートはしているところではあるんですけども、それが鞍手町の住民の方、皆さんのサポートしているわけではなく窓口でそのサポートの依頼があった場合にサポートしておりますので、全体数としては把握しておりません。

以上です。

（4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める）

○4番（宇田川亮君）

分かりました。

次に、個人や医療機関等からの相談や苦情はなかったのか、また誤入力やトラブルの状況についてもありましたら教えてください。

（住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める）

○住民環境課長（大村俊夫君）

お答えいたします。

マイナンバーカードに関するトラブルにつきまして、現在まで鞍手町においてマイナンバーカードの登録内容について誤りがあったとの相談、苦情等は上がっておりません。また、報道を受けてマイナンバーカード制度の不安を訴える相談等も現在のところあっておりません。

以上です。

（4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める）

○4番（宇田川亮君）

鞍手町には、独立行政法人のくらて病院がありますけれども、くらて病院はこのシステムが導入されている。

ちょっと急で申し訳ないけど、分かれば教えていただきたい。

もし導入されているのであれば、そこでいろんなトラブルがあるんじゃないだろうかというふうに思うわけですけども、その点についても分かれば教えてください。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長 (大村俊夫君)

お答えいたします。

くらで病院のほうでマイナンバーカードの保健所の対応というのは現在も行っているということです。

詳細については確認しないと分からないところがございます。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

くらで病院等でトラブルがあったとかいうことは、今現在は把握してないということですね。

(住民環境課長 大村俊夫君、挙手して発言を求める)

○住民環境課長 (大村俊夫君)

住民環境課のほうでは現在把握しておりません。

以上です。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

最後行きます。

全国保険医団体連合会は9日マイナ保険証による医療現場のトラブル調査、これの中間集計結果を発表しました。回答があったシステムを運用している医療機関6062件のうち、トラブルありが39299件、全体の64.8%も発生していることが分かっております。

連合会は厚生労働省にオンライン資格確認義務化延期とシステム改善を求めてきましたが、一向に改善せず見切り発車された。

健康保険証廃止と医療現場の訴えを無視し、トラブルを招いた政府与党の責任は重大だと語っています。マイナカードの取得はあくまでも任意ですけれども、保険証廃止となれば全ての国民がカードの取得と保険証との一体化を事実上強制されることになりま。病気や障害のため、自分で手続きが難しい方もおられます。特養ホームなどでは、管理者がカードの保管や暗証番号の管理の責任を負われ、情報が流出すれば処罰もありうる重い負担となっております。保険証の廃止は問題が次々に噴出し国民皆保険制度の根幹を脅かすまさに命に関わる大問題です。

町として、保健証廃止はやめるよう国に強く働きかけるよう要望しますが、町長の考えをお聞かせください。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

国が2024年の秋に保健証を廃止しマイナンバーカードに一本化することが決定している中で、現在、全国でマイナンバーカードに関するトラブルが相次いでいることは承知をしております。

特に保健証に関する情報の誤りは、命に関わる重大な事故を招く恐れがあるとも思われます。国に対し、保健証の廃止をやめるよう要望する考えは私自身今のところはありませんが、保健証を廃止しマイナンバーカードへ一本化するに当たっては、他の市町村と連携しながら町村会を介するなどして国民が抱えている不安の解消、よりしっかりとした制度設計、丁寧な説明などを国に要請していく必要があると考えています。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

今、全国的にこの問題については保険証との紐づけの問題については、すごい不安と不満が広がっているわけですよ。実際、医療現場でも大変なトラブルもあるし、時間もかかる。ましてや無保険状態になっている方も出てきている。

タイムラグとは、河野大臣は言っていますけれども、そういった中で保健証を何で廃止する必要があるのか。マイナンバーカードは任意ですよ。

だけど保険証は、国民皆介護保険ですから、ここは物すごい矛盾を抱えて、しかもこれは本当に命に関わる大問題ですから、ただ単に連携してじゃなくて独自でも国もこれはもうやめろと、保健所の廃止をやめろと、併用はいいけどやめろ、そして市町村の連携もやっていく一緒に国に要望していく。

そのぐらいやってくださいよ。

もう、町民の命を守ってくださいよ。先ほど自衛隊の問題ないけど、ぜひお願いします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほども答弁しましたとおり、多くの問題を抱えているということも承知をしておりますし、国民が不安に思っているということも承知をしております。

しかしながら、その不安を解消するためには、しっかりとした制度設計が必要である

というふうにも考えておりますし、国民の不安を解消するために丁寧な説明も必要であるというふうにも思っております。

そういうことを町が言うよりもやはり町村会として、またはむしろ言うならば地方6団体が団結して国のほうにも要望していくということが何より国を動かすことにつながるのではないかというふうに考えます。

(4番 宇田川亮君、挙手して発言を求める)

○4番 (宇田川亮君)

町長、町民の代表ですよ。

そしたら私自身個人的にはやる、やめろとは言いませんけど、みんなと一緒にだったらやりますとか、そんなことじゃ駄目じゃないですか。もうシステムを改善して、うまくいくということはもう破綻しているんです保険証の廃止という問題は。

ですから、今こそ町長が気概を見せて、私一人でも国に要望書を出します要望します。県にも要望します。一緒にやりませんか町村会でいいです。

そういう、活動というか、動きをしてもらえないだろうか。町民、町の代表として、ぜひお願いします。

(町長 岡崎邦博君、挙手して発言を求める)

○町長 (岡崎邦博君)

先ほども答弁したとおり、理事長の声も恐らくは県、国も大切にしてくれるというふうには思いますが、やはりそれを実効あるものにするには先ほど言いましたように、全国の町村会であったり、市長会であったり、知事会であったり、ある意味地方6団体がまとまって要請していくということのほうが大事だろうというふうにも考えておりますので、福岡県の町村会の会長が今度変わりましたが、その会長にはそういう話はしていきたいと思えます。

○議長 (的野信之君)

以上で、宇多川亮議員の質問を終わります。

この際、休会についてお諮りします。

明日13日を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

ご異議なしと認めます。

よって明日13日を休会とすることに決定いたしました。

以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会します。

~~~~~○~~~~~

— 閉会 14時34分 —